大学・高専機能強化支援事業（支援 2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【大学 一般枠、特例枠】実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F139110110504	改組内容	研究科等の設置・増員+学部等の設置・増員（一般枠）
大学名	高知大学	設置区分	国立	事業計画名	「地域課題解決×DX」に資する高知大学理工系修士課程改革を通じた地域変革の拠点形成プロジェクト
学校種	大学	都道府県	高知		

1. 年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和6年度	【情報系組織の入学定員】 大学院総合人間自然科学研究科理工学専攻10人 理工学部情報科学科3年次編入学定員2人 理工学部情報科学科においてR7から3年次編入学定員10人増員に向けた概算要求手続き（他学部からの定員移行） 修士課程理工学専攻における入学定員5人増に向けた概算要求手続き	【情報系組織の入学定員】 令和7年度の概算要求により、大学院総合人間自然科学研究科理工学専攻5人増員（純増）及び理工学部情報科学科3年次編入学定員10人増員（人文社会科学部人文社会科学科及び医学部看護学科からの編入学定員移行）の手続きを完了した。 このことにより、令和7年度から、「情報科学・データサイエンス・DX教育プログラム」の15人の募集人員で実施、及び理工学部情報科学科12人による編入学の実施が可能となった。	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
	①朝倉キャンパスにおいて、情報科学棟Ⅱを新築するための設計等を行う。 ②理工学専攻にて「情報科学・データサイエンス・DX教育プログラム」実施のための高性能計算システムを構築する。 ③「情報科学・データサイエンス・DX教育プログラム」実施に向けた教員採用手続き（3人） ④理工学専攻において、技術職員採用手続き（1人）	「高性能計算システム」について、GPU等の資材の入手が困難であることから、入札手続き等を延期し、令和6年度はその準備期間とするよう、計画変更申請を行い、R7.2.21に承認を受けた。そのため、令和7年度（②）及び令和8年度（④）の計画を以下のとおり変更した。なお、「高性能計算システム」は、「情報科学・データサイエンス・DX教育プログラム」の教育課程上、2年次に主に使用するシステムであるため、令和7年度の学生教育に支障は生じない。 ①朝倉キャンパスにおいて、情報科学棟Ⅱを新築するための設計等を行う。 ②理工学専攻にて「情報科学・データサイエンス・DX教育プログラム」実施のための高性能計算システムを構築する に向けた入札等準備を行う。（R7.2.21） ③「情報科学・データサイエンス・DX教育プログラム」実施に向けた教員採用手続き（3人） ④理工学専攻において、技術職員採用手続き（1人）		
令和7年度	大学院総合人間自然科学研究科理工学専攻10人→15人（5人増員） 理工学部情報科学科3年次編入学定員2人→12人（10人増員） ①朝倉キャンパスにおいて、情報科学棟Ⅱを新築する。 ②朝倉キャンパスにおいて、情報科学棟を改修する。 ③「情報科学・データサイエンス・DX教育プログラム」開設・実施する。 ④高性能計算システム構築後、保守・維持を行う。	①朝倉キャンパスにおいて、情報科学棟Ⅱを新築する。 ②朝倉キャンパスにおいて、情報科学棟を改修する。 ③「情報科学・データサイエンス・DX教育プログラム」開設・実施する。 ④理工学専攻にて「情報科学・データサイエンス・DX教育プログラム」実施のための高性能計算システムを構築（R7.2.21） ⑤高性能計算システム構築後、保守・維持を行う。	R7年度自己評価	リストから選択してください。
令和8年度	修士課程理工学専攻における入学定員10人増に向けた概算要求手続き ①「情報科学・データサイエンス・DX教育プログラム」実施する。 ②高性能計算システム構築後、保守・維持を行う。		R8年度自己評価	リストから選択してください。
令和9年度	大学院総合人間自然科学研究科理工学専攻15人→25人（10人増員） ①「情報科学・データサイエンス・DX教育プログラム」実施する。 ②高性能計算システム構築後、保守・維持を行う。		R9年度自己評価	リストから選択してください。
令和10年度	<修士> 25人、<学士> 30人 ①「情報科学・データサイエンス・DX教育プログラム」実施する。 ②高性能計算システム構築後、保守・維持を行う。		R10年度自己評価	リストから選択してください。
令和11年度	<修士> 25人、<学士> 30人 ①「情報科学・データサイエンス・DX教育プログラム」実施する。 ②高性能計算システム構築後、保守・維持を行う。		R11年度自己評価	リストから選択してください。
令和12年度	<修士> 25人、<学士> 30人 ①「情報科学・データサイエンス・DX教育プログラム」実施する。 ②高性能計算システム構築後、保守・維持を行う。		R12年度自己評価	リストから選択してください。
令和13年度	<修士> 25人、<学士> 30人 ①「情報科学・データサイエンス・DX教育プログラム」実施する。 ②高性能計算システム構築後、保守・維持を行う。		R13年度自己評価	リストから選択してください。
令和14年度	<修士> 25人、<学士> 30人 ①「情報科学・データサイエンス・DX教育プログラム」実施する。 ②高性能計算システム構築後、保守・維持を行う。		R14年度自己評価	リストから選択してください。
令和15年度	<修士> 25人、<学士> 30人 ①「情報科学・データサイエンス・DX教育プログラム」実施する。 ②高性能計算システム構築後、保守・維持を行う。		R15年度自己評価	リストから選択してください。

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	高知大学
-------------	-------	-----	------

2. 申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校等の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3. 申請要件の取組状況

令和6年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。	
---	---	--

確認を受けている	☒ チェック
対象に該当しない	☐ チェック

②	志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。	令和6年度においては、定員確保に向けて学生募集ポスターの送付、WEBページの公開等の広報展開を行った。しかし、本事業の採否結果を受けてからの学生募集だったことから、募集の開始が例年よりも遅くなったため、修士課程では15名定員に対して入学生は14名となった。また、学士課程における3年次編入学においては、競争要求の手続き後に、募集を開始したことから募集期間が短くなったため、12名の定員に対して入学生は10名となった。3年次編入学及び修士課程と共に、定員を満たすことはできなかった。なお、学士課程1年生においては、定員30名に対して入学者32名であり、定員確保している。令和7年度においては、例年どおりの期間で学生募集を行うことと、十分な募集期間を確保でき定員も確保できるものと考えている。これに加え、高専の専攻科生および本科生を対象として新規に「研究室インターンシップ」を開始し、修士課程および3年次編入学へ誘引する。さらに、修士課程においては、新規に採用した外国人教員の研究において驚かのある海外の大学に向けて広報展開するなど、留学生を積極的に受け入れ、定員充足するように努める。
---	---	---

計画通りに進んでいる	☐ チェック
------------	-------------------------------

③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な資質保証の特組みを活用するなど出口における資質保証にも十分留意することが重要。）	
---	--	--

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--

④	特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境整備を図る計画となっていること。	当初は、令和7年度の理工学専攻（修士課程）「情報科学・データサイエンス・DX教育プログラム」の実施にあわせて、令和6年度に教育研究環境として高性能計算システムの導入を行う計画であった。しかし、令和6年度の採択後では、準備期間が短く、また、購入を予定していたGPUが不足しており、導入することが困難であった。そのため、令和6年度は入札準備を行うこととし、令和7年度に高性能計算システムを導入するように計画変更申請を行い、承認された。なお、本計画変更により、学生教育に支障なく、研究成果をさらに高めることができるように改善を行った。
---	--	--

計画通りに進んでいる	☐ チェック
------------	-------------------------------

⑤	計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。	
---	---	--

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--

⑥	特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）を含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。	
---	---	--

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--

⑦	社会において具体的な人材ニーズが現在存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。	
---	---	--

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--

⑧	教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）	
---	---	--

既設の情報系分野に係る研究科等を有する	☒ チェック
---------------------	--

⑨	機構による事業計画の道定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。	
---	--	--

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--

⑩	計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。	
---	---	--

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--

⑪	国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中期目標期最終了時までに他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。	
---	---	--

計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック
-----------------------	--

⑫	教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。	
---	-------------------------------------	--

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--

⑬	文部科学省が実施する数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。	
---	--	--

認定を受けている、又は対象に該当しない	☒ チェック
認定を受ける計画が進んでいる	☐ チェック

⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
---	---	--

認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック
--------------------	--

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	高知大学
-------------	-------	-----	------

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>本学では、高知県と高知大学の意見交換会を定期的に開催しており、高大接続（高等教育における地域活性化の取り組みに対する支援等も含む。）・大学教育を通じた地域活性化に向けた課題、大学卒業時における地域定着、地域定着に向けた経済的支援等、情報系分野に限らず多岐にわたる課題等に協働して取り組む体制を構築している。また、全学組織である次世代地域創造センターに地域DX共創部門を設け、地域の自治体やコミュニティのDXの推進に向けた事業等を推進している。</p> <p>理工学分野の人材育成に関しては、外部評価委員会として「運営委員会」を設け、高知県内の教育界（高等学校関係者）、産業界（高知県工業会等）、卒業生等の御協力で、PDCサイクルを構築している。高知県内の情報系専修学校評価委員会を通じて、カレッジの現職からの専修学校のキャリアアップの高度化等を行うことで、地域社会の情報人材のすべり拡充等の役割も担っている。</p>	<p>「高知県と高知大学の意見交換会」（学長・理事及び高知県知事等で構成）において、若年人口の県内定着に向けた県内大学との連携等について意見交換を行い、大学卒業時における地域定着のための協力体制等について確認した。また、「国立大学法人高知大学と高知県教育委員会の連携協議会」（学長・理事及び高知県教育長等で構成）において、本学と高知県教育委員会のDXハイスクールの協力体制について確認した。次世代地域創造センターに設置している地域DX共創部門では、デジタル技術を活用した仕組み創出のために学習企画、教育開発、教育開発、場の提供などを行っている。令和6年度は、「Kochi-PBLゼミ」を開催し生成AIの活用方法に関する講演やパネルディスカッションを行った。</p> <p>また、本事業の中で、修士課程で令和7年度から開設される「情報科学・データサイエンス・DX教育プログラム」において開講される必修科目「SRU+地域DX特論」の準備を、次世代地域創造センター地域DX共創部門と連携して行った。本授業は、「地域を支え地域を変えることができる大学」として地域の課題に向き合い、デジタル分野を活かして、課題解決に柔軟に対応できる力を養うことを目的とする。産業、自治体等と連携し、地域を支えるDXの現状、今後について幅広い知見が得られるように、実務経験を有する講師によるオムニバス形式の授業として実施することとした。実務経験を有する講師として、高知県デジタル政策課の職員をはじめ、一般社団法人まるごとデジタル、高知県製造工業、合同会社AcherMake、日本マイクロソフト、富士通の方向けに受け付け。</p> <p>外部のステークホルダーや有識者との意見交換の場として、「理工学部保護者会」を対面形式で開催し、保護者約90名の参加があった。プログラムの一つとして保護者と教員との面談を行い、理工学部の教育活動、就職支援活動に対する保護者からの要望や意見を収集した。また、「理工学部後援会役員会」を開催し、学部への要望事項等について、後援会役員の方々と意見交換を行った。</p> <p>高知開成専門学校において、年度末に以下の3専門委員会において本教育プログラムの教員が委員長を務め、アカデミアの観点からの専修学校のキャリアアップの高度化等を行うことで、地域社会の情報人材のすべり拡充等の役割を果たした。</p> <p>教育課程編成委員会（工業専門課程） IT人材育成課程におけるキャリアアップ編成状況の確認や実施状況についての確認・検討 学校関係者評価委員会 高知開成専門学校の学校運営に関する自己評価報告書の確認や学校運営に関する確認</p>	

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>高知大学理工学部情報科学科と高知大学総合情報センターの教員が中心となって高知県教育委員会と連携した「中山間地域の小規模校の遠隔教育導入を支援する高度情報技術の開発プロジェクト」により、中山間過疎地域に導入された遠隔合同授業における研究授業を対象として、ネットワークを通じた遠隔非同期による研究授業とビデオ支援システムを提案するなど、初等中等教育における情報系分野での地域との連携実績がある。また、全学の理工系分野の教員が参画し、様々な科学実験の面白さ、身の回りの自然の不思議さを追求する楽しさ、物作りが打ち込む充実感を感じられる体験ができる「青少年のための科学の祭典」などのイベントを毎年企画・実施するなど、理工系全体としても、初等中等教育との連携実績は豊富である。また、理工学部は県内外から出前授業の依頼が毎年あり、出前授業の実績も十分にある。</p> <p>本事業により導入される計算資源は、AI-データサイエンス研究にも使用される高度で実践的なものである。その計算資源を高知県内の初等・中等教育におけるAI-データサイエンス教育に対して提供する学習的・技術的サポートを行う取り組みを計画している。また、県内の初等・中等教育における計算機を利用した本職学習等のための計算機実習室等の場の提供、出前授業のさらなる充実などの取組みも併せて計画している。</p>	<p>令和6年度に高校生を対象にした高大連携事業および模擬授業は次のとおりである。 【高大連携事業】 令和6年度高大連携事業「高校生のためのおもしろ科学講座」（8月6日に次の2つの講座を実施） 1）「たまたまうたいたいてんたき：暗号入門」（午前） 2）「見るとは何か？3次元映像を通じて体験しよう！」（午後） 参加者は県内の高校生13名（3年生：5名、2年生：7名、1年生：1名）。 【模擬授業】 ・学校名：高知高校（対象：1、2年生）、授業内容：暗号入門、参加人数：1回目14名、2回目17名。 （令和7年3月13日オンライン開催（1、2回目とも同日開催）。各回50分） ・学校名：高知小津高等学校普通科（対象：1年生）、授業内容：風環境と建物 25名 （令和6年11月11日 場所：高知大学理工学部1号館/防災工学実験棟（構造力学実験室）） 今後の取組みとして、次の内容について検討した。 ・県内の初等・中等教育における情報科学、AI-データサイエンスに関連した出前授業や体験学習 例えば、「AIに相談して楽しくろす - Google NotebookLMを使ってみよう」、「Google Trendsを用いた各学校の検索数時系列解析やキーワード分析」、「未来の社会における光情報学」など。 ・令和7年度に導入予定の計算資源の高知県内の初等・中等教育機関への提供 初等・中等教育機関におけるAI-データサイエンス教育での活用を考慮し、計算資源を準備している。</p>	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>理工学専攻では、社会人学生確保に向けて入学希望者を実施している。本事業推進の中では、社会人向けに情報科学系のキャリアアッププログラムを「ワッジョ」（データサイエンス）、「計算機工学」、「放電情報科学」として提供することにより、大学院への入学を更に促進する計画である。また「ワッジョ」をベースとして履修証明プログラム等の構築も図る計画であり、理工学専攻が持つ県内におけるキャリアアップ教育拠点としての強化を図る。</p> <p>女子学生確保に向けては、高知県や中国四国地域の子中高生・高専生を対象として、理工学への興味促進、理工系の職業イメージの明確化、ひいては理系進路選択へのアピールを継続的に図る。実績のある取組としては高専生対象の「おもしろ科学講座」（直近の情報系の実績では、13人中7人の女子が参加）等を開催し、「ラボラトリー」など受講生の関心の高いテーマを設定し、女子学生も含めて関心を図っている。</p> <p>次に留学生確保に向けては、理工学関係の大学間協定校3校、理工学部局間協定校2校等を対象として、情報系分野における機能強化等を積極的に広げることを図り、留学生獲得を推進する。支援体制としては、全学組織としてグローバル教育支援センターを設け、「アソババ教育制度」、「チューター制度」等を設け、修士支援・就職支援等を行っている。</p>	<p>【社会人学生確保】 理工学専攻（修士課程）では、これまで社会人特別選抜を実施しており、本事業で開設する「情報科学・データサイエンス・DX教育プログラム」においても、社会人学生の確保に向け社会人特別選抜を実施した。 また、情報科学系のキャリアアッププログラム教育について、社会人の情報科学・データサイエンス・DX教育プログラムへの誘引等を目的として、令和8年度から履修証明プログラムを実施する。その準備のため、令和7年度に、キャリアアップ編成や募集要項の作成等の準備を進めることを決定した。</p> <p>【女子学生確保】 主に、高知県の女子中高生・高専生に対して次のことを行った。情報科学・AI-データサイエンスへの興味促進、職業イメージの明確化、進路選択へのアピールを継続的に図った。 ・高大連携事業（令和6年度高大連携事業「高校生のためのおもしろ科学講座」）、模擬授業（2回）の実施 ・進学相談会（令和6年6月12日） 来場者は、県内の高校生（1,2年生）であり、理工学部全体で約15名、そのうち約7割が情報系に興味を持っていた。 ・進路ガイダンス 兵庫県立伊丹高等学校 対象1年生 15名（7月17日） ・高知大学創立75周年記念事業「未来研究ミュージアム～留校の扉をひらこう～」開催日：令和6年9月28日）において、令和7年度から修士課程で開設される「情報科学・データサイエンス・DX教育プログラム」の紹介、各研究室の研究紹介、研究のデモ展示を行った。また、インフルエンサーとして活躍する信州大学工学部の藤田あき美教授に基調講演をお願いするなど、幅広い世代を対象に本記念事業を実施し、計325名が参加した。</p> <p>【留学生確保】 支援体制としては、全学組織としてグローバル教育支援センターを設け、「アソババ教育制度」、「チューター制度」等により、修士支援・就職支援等を行っている。さらに、「情報科学・データサイエンス・DX教育プログラム」（修士課程）でも積極的に支援を行うとともに外国人教員を採用した。本採択結果を受けひらく学生募集を行ったため、募集の開始が例年より1週間（本教育プログラム（修士課程）学生募集集客と日本語学校へ発送し、WEBページを開発し広報展開を行った。さらに、WEBから直接Formに問い合わせができるようにした。その結果、本教育プログラム（修士課程）に入学者の研究内容に関して指導希望を希望する教員への相談が23件であり1名が入学した。今後も、理工学関係の大学間協定校および理工学部局間協定校等を対象として、情報系分野における機能強化等を積極的に広げることを企図している。 また、理工学部の私費外国人留学生特別選抜において外国人留学生の獲得のため、出願資格および要件などの拡大を検討している。</p>	

④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>大学院では、高知県内の高等教育機関の連携母体として「高知学長会議」を設け、本学・公立2大学・私立2大学1短期大学・1高等専門学校が参画しており、人材育成等を主たるテーマとして連携を推進しているほか、「高知版地域連携プラットフォーム」の構築に向けても協議を行っている。</p> <p>3年次編入学予定定員（R7）を契機として、高等専門学校（当初は、四国内の高専から想定）との連携の強化を図る。近隣高専2校との情報交換では、「編入学定員増の情報が伝われば、志願者は確実に増える」との意見が出ており、編入学における学生教育、同学生の大学院進学後の研究指導等における連携についても協議を開始している。編入学学生誘引に向けては、「研究室インターンシップ」を導入する。高専の「インターンシップ」科目に連携し、学生の研究室体験等を実施する。また今回導入する深層学習専用GPUサーバやAI学習高性能計算サーバなどを活用した共同研究等についても協議を開始している。</p> <p>また、「バイオフィオメクス特論」、「シミュレーション特論」等の科目では、先進的な研究にも触れることができるよう、同分野での一線級の研究者（国立遺伝学研究所・東北大学や近隣では徳島大学など）の協力を受け、授業を展開する。また、四国の5国立大学では、大学等連携推進法人を構成しており、将来的には情報系においても、連携開設科目を通じた連携も視野に入れる。</p>	<p>高知学長会議（高知県内の国公私立の大学・短期大学・高等専門学校で構成）において、「高知版地域連携プラットフォーム」の構築について、高等教育機関間で協議を行った。今後の具体的な連携については、令和7年度に開催される高知学長会議において決定していく予定である。</p> <p>令和7年度における3年次編入学定員の増員を契機として、高等専門学校との連携の強化を図っている。申請時にに行った近隣2高専との情報交換を踏まえ、まずは、定員確保に向けて編入学学生を誘引するために、令和6年度に高専生向けのオープンキャンパスと3年次編入学試験において推薦入試を実施した。さらに、令和6年度は、近隣4高専の教員と情報交換を行い、高専におけるインターンシップについて調査した。これを踏まえ、令和7年度に近隣の高専と協力を得て、共同研究インターンシップを実施した。本協定には、情報科学科博士号完成後の令和8年度から実施する予定である。また、編入学における学生教育、同学生の大学院進学後の研究指導等における高専との連携についても引き続き協議し、その結果を踏まえ、高専との連携も考慮した学部がキャリアアップの見直しを令和7年度中に行い、令和8年度から適用することを決定した。</p> <p>3年次編入学希望者及び「情報科学・データサイエンス・DX教育プログラム」（修士課程）への進学希望者に対して、オンラインオープンキャンパスを実施（8月3日）を行った。（3年次編入学：オープンキャンパス参加者9名のうち6名が入学）</p> <p>「バイオフィオメクス特論」、「シミュレーション特論」、「深層学習特論」、「画像分析特論」の実施を決定した。先進的な研究にも触れることができるよう、同分野での一線級の研究者（国立遺伝学研究所・公益財団法人古屋産業科学研究所・東北大学・東京理科大学・順天堂大学・千葉大学・福井大学・九州大学や近隣では徳島大学・高知工科大学）の協力を受け、授業を展開することとした。</p> <p>愛媛大学が行った「四国型次世代科学技術インターンシッププログラム」（SHIN-GS）に参画（参画大学：徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学、高知大学、松山大学、岡山理科大学）する。参画大学間で協議を進めながら、高校生を中心とした受講生の課題研究を受け入れ体制の構築を検討する。</p>	

大学名	高知大学	改組内容	研究科等の設置・増員 + 学部等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	-----------------------------

4.外部資金の状況（全学）

年度		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	2,196,401																		

特記事項

「2.情報系組織の状況」卒業生数等について、学士課程は理工学部情報科学科について、修士課程は総合人間自然科学研究科理工学専攻修士課程は「情報科学・データサイエンス・DX教育プログラム」について、博士課程は総合人間自然科学研究科応用自然科学専攻の情報系コースについて記載している。
「その他の学期」入学定員について、「0」人とは、応用自然科学専攻（博士課程）の秋入学若干名を意味している。